

26 一般住民における血清グリコアルブミン値と動脈硬化の関連の検討：Kyushu and Okinawa Population Study (KOPS) の成績

研究代表者名：古庄憲浩

共同研究者名：古賀恒久、迎 はる、海野麻美、永楽訓三、居原 毅、林 武生、池崎裕昭、光本富士子、高山耕治、豊田一弘、小川栄一、貝沼茂三郎、岡田亨子、村田昌之、林 純

施設名：九州大学病院 総合診療科、九州大学大学院 感染制御医学

目的：

血漿グリコアルブミン値は約 2-3 週間の血糖変動を反映し、私どもは糖尿病診断において血漿グリコアルブミン値が有用であることをすでに報告した。今回、血漿グリコアルブミン値と動脈硬化との関連について一般住民において調査した。

対象と方法：

対象は、一般住民検診受診者 1,575 例（平均 49.9 歳、26-78 歳）において、理学的所見、血漿グリコアルブミン値、HbA1c、および血清高感度 CRP 値を測定し、頸動脈エコーを用いた頸動脈内膜中膜複合体厚 (IMT) を計測した。

成績：

血漿グリコアルブミン値は、HbA1c、血清高感度 CRP 値、および最大 IMT 値と有意な正の相関を有した。Receiver operating characteristic curve 解析において糖尿病の診断における血漿グリコアルブミン値 cutoff 値は 15.5% であった。血漿グリコアルブミン値 15.5% 以上例の高感度 CRP 値 2.4mg/L および最大 IMT 値 0.852mm は、15.5% 未満例の各々 2.3mg/L および 0.759mm に比べ有意に高値であった (P=0.048 および P=0.003)。

結語：

一般住民において、血漿グリコアルブミン値が動脈硬化と関連することが示唆された。